

平成 30 年 3 月 23 日～4 月 22 日

堺出身・戦後初の芥川賞作家

ゆ き 由起しげ子



▲『アサヒグラフ』

1949 年 12 月 21 日号より

由起 しげ子 (ゆき しげこ)

明治 33 年(1900 年)～昭和 44 年(1969 年)

由起しげ子は大阪府泉北郡浜寺に生まれました。母は 10 歳のときに死去、由起は多くの時間を家の近くの海に出て過ごしたといえます。青年期には、大阪府立堺高等女学校(現・泉陽高校)を卒業後、神戸女学院音楽部で作曲を山田耕筰に学びました。25 歳で画家の伊原宇三郎と結婚し、新婚生活をパリで送ります。伊原とは四人の子をもうけますが、やがて結婚生活は破たん、終戦の混乱の中、45 歳で生活のために小説を書きはじめました。二作目に書いた「本の話」で戦後復活第一回の芥川賞を受賞。その後出版した「女中ッ子」はベストセラーとなり、映画にもなりました。この頃から女性の生き方をテーマとした半通俗的な小説も手がけるようになり、69 歳で亡くなるまでの間に 120 編以上の小説を発表しています。

参考:『女性作家シリーズ 6』角川書店、1998

平成 30 年 2 月 2 日、堺親善大使の講談師・旭堂南陵さんより、由起しげ子の自筆原稿 1 点、書籍 20 点、掲載雑誌 39 点をご寄贈いただきました。

南陵さんは由起しげ子の出身校である府立泉陽高校の後輩にあたり、約 20 年かけて収集されたコレクションを「堺にゆかりのある文化人をより多くの市民の皆さんに知ってもらいたい」との思いで、図書館にお譲りいただきました。この度、貴重なお寄贈資料の中から、直筆原稿などを展示いたします。

★直筆原稿 「巨大な樹林と溪谷の町」

のちに『婦人公論』1957 年 11 月号に掲載された「山の保健婦さんを訪ねて」というルポタージュの原稿と思われます

★寄贈書籍

	タイトル	出版社	出版年
1	本の話【芥川賞受賞作品】	文藝春秋新社	昭和 24 年
2	コクリコ夫人	早川書房	昭和 27 年
3	ルリ色の海	同和春秋社	昭和 30 年
4	語らざる人	講談社	昭和 30 年
5	美しいポリー【原作:オルコット】	講談社	昭和 31 年
6	今日のいのち	現代社	昭和 31 年
7	未知からの誘い	現代社	昭和 31 年
8	夕すげ	現代社	昭和 31 年
9	若い火	河出書房	昭和 31 年
10	女ごころ	文芸評論社	昭和 33 年
11	女の中の悪魔	新潮社	昭和 34 年
12	契約結婚	新潮社	昭和 35 年
13	夢違い	光文社	昭和 35 年
14	沢夫人の貞節	新潮社	昭和 36 年
15	罪と愛	新潮社	昭和 37 年
16	真夜中の顔	新潮社	昭和 38 年
17	小さな結婚	講談社	昭和 38 年
18	やさしい良人	文藝春秋新社	昭和 38 年
19	愛のかけら	文藝春秋新社	昭和 39 年
20	女中っ子	偕成社	昭和 44 年



★寄贈雑誌（一部）

	タイトル	掲載雑誌	出版年
1	愛煙女性告知板【グラビア】	アサヒグラフ	昭和 28 年 12 月 9 日号
2	私の好きな演奏家【随筆】	音楽之友	昭和 28 年 1 月号
3	シナリオ 挽歌【シナリオ】	キネマ旬報	昭和 32 年 6 月上旬
4	人の生き死に【随筆】	新潮	昭和 36 年 9 月号
5	指輪の話【小説】	別冊文芸春秋	昭和 26 年新春小説集
6	お墓と古鏡【随筆】	歴史読本	昭和 44 年 6 月特別号

展示終了後は中央図書館内で閲覧いただけます（貸出はできません）。
詳しくはカウンター職員にお尋ねください。